

危険排除の大切さ 続けた消防活動と救助活動

——震災直後の状況を教えてください。

寺島 すぐに消防に駆けつけて、そのあと、安平町役場へ向かいました。当然、災害対策本部が立ち上がるだろうと判断したからです。



寺島 博一さん

小笠原 地震が発生した時は、安平支署に6名、追分出張所に4名が勤務していました。すぐに緊急車両が出動できるようにシャッターを開けました。全署員（安平支署21名、追分出張所13名、当時1名札幌に出張）が出動し、町内巡回に出動しました。



小笠原 規人さん

米倉 地震直後に安平町内を巡回し、複数の隆起や陥没した危険な道路箇所を発見

し、一般車両はもろんのこと、消防車両の通行に支障があるのを確認しました。



米倉 俊也さん

陥没した道路で発生した事故車両の対応が1件ありましたが、建物や車両等の火災発生はありませんでした。

しばらくして「厚真町に向かう道道が寸断されている」との連絡があり、確認のために現地へ向かいました。ごみ処理場入口の手前付近で、数台の一般車両と自衛隊車両が停車しており、その先に道道を完全に封鎖する、地滑りによる土砂崩れを確認しました。地滑りに巻き込まれた車両がないか確認したところ、該当車両はなく、安心したことを覚えています。

案内をして救出に向かうこともありました。

また、防火水槽に亀裂が生じている可能性があるのですが、町内すべてを確認するように指示。幸い火災は起こりませんでした。が、可能性はありますので、その場合にすぐ対応できるようにしていました。

——厚真町の現場に職員を派遣されていますね。

寺島 厚真町の被害が甚大なため、組合本部から救出作業に加わるよう指示がありました。9月6日朝から10日朝まで、交代で2〜3名、多い時で5名を派遣しています。

小笠原 道路が寸断されているので遠回りする必要がありますが、現場に行くのに1時間近くかかりました。土石流で大木がなぎ倒されているなど、これまで見たことがない光景が月明かりに照らされていました。強烈な記憶として残っています。自衛隊が重機を操作し、消防職員がスコップで掘り起こすのですが、流れ出した土は硬く、まるでコンクリートのようでした。

米倉 人命が助かる可能性のある72時間は、途切れることなく徹底して救出活動を行うため、3時間の交代制で救出活動を続

けました。

小笠原 現場は厚真の奥まった地域だったので、地震による道路迂回など、行き帰りの時間を含めると実質交代に5時間はかかりました。支署に戻ると、今度は安平町の安全確保のための活動や勤務に当たり、すぐ出動できる態勢を確保していました。

——震災を経験し、どのようなことが教訓として活かされるべきでしょうか？

寺島 震災から1年後に、震災時における消防組合の連絡体制などが話し合わせ、反省しなければならぬ部分は反省しました。冬季に地震が発生した場合は火災の発生確率が高くなるので、平時の火災予防の呼びかけなどを細かく行っています。地震を防ぐことはできませんが、火災を最小限に防ぐことは可能だと思いますから。住宅用火災警報器の普及も進んでいますし、住民の防災への意識は高まってきていると感じています。

——今回の地震で消防の一番の役割は何だったと思われますか？

寺島 今回の地震で私たちが一番に行った

——どのような活動をされていましたか？

小笠原 地震発生直後の3時38分に「階段から滑り落ちて腰を痛めた」と最初の通報が入りました。明るくなるにつれて「ホームタンクがひっくり返った」「ドアが開かない」などの通報が寄せられ、全部に対応しました。震災当日は7件（早来地区7件、追分地区0件）の通報がありました。が、幸い重傷者がいなかったことと、早来地区の渡邊医院が患者を受け入れてくれたことで、スムーズに搬送できました。

寺島 対策本部にも「家が倒壊しそう」など、住民から様々な連絡が入ってきました。で、そうした情報を支署と出張所に伝え、必要に応じて出動させました。「道路が寸断されて避難所に行けない」という報告を受け、消防職員が自衛隊車両に同乗し、道

ことは、危険排除です。地震によって屋根のトタンが剥がれた家屋は、雨が降ると漏電火災を起こす危険性があり、さらに剥がれたトタンが飛んで歩行者に当たると、怪我人が出る危険性もある。そういった危険性を未然に防ぐ活動が危険排除です。

地震により複数の灯油ホームタンクが倒れて油漏れが発生したので、油の抜き取り作業と再転倒防止の処置を施しました。住宅の外煙突が損壊で倒れそうな箇所では固定処置を施しました。それらの危険排除に対応するのも消防の仕事であります。

その後に余震が起こっても安全を保つことができる状態にしておくことが、消防の仕事で一番大切な役割だと思います。



消防署安平支署にて